～町長選挙にあたって～

**しんぶん赤旗読者・党支持者・後援会員のみなさまへ**

　日ごろよりお世話になり、本当にありがとうございます。

７月の参議院選挙では、多くのみなさんからご支持・ご支援をいただき、大躍進を果たすことができました。みなさんの期待にこたえて、いっそうがんばります。

さて、９月２４日告示・２９日投票で、町長選挙がおこなわれています。日本共産党岬町支部と中原あきらは、「住民が主人公」の町政を実現させるために奮闘してきました。地域では、「家庭ごみ無料化」復活の運動などに取り組み、住民のみなさんと力を合わせて、くらしを守るためにがんばってきました。議会では、住民の目線で「良いものには賛成、悪いものには反対」という態度でのぞみ、住民のみなさんの切実な願いを届けてきました。

町長選挙は政治を変えるチャンスであり、住民の利益を守るためにも、候補者を擁立してたたかうのが本意です。しかしながら、今回は力不足もあり候補者を擁立するには至りませんでした。

町長選挙は３人の候補者によってたたかわれていますが、日本共産党は、どの候補者も支持できる条件はないと考えています。

現町長は、家庭ごみの無料化を復活させ、固定資産税の超過税率引き下げや子ども医療費助成制度を拡充するなど、住民の願いにこたえる施策を実施してきました。公約でも、さらなる子ども医療費助成の拡充や不燃ごみの無料定期回収を掲げるなど、前向きな姿勢が感じられます。しかしながら、住民が受けている苦しみのおおもとには国や大阪府の政治があり、住民の命とくらしを守るには、国や大阪府の悪政を根本から変える姿勢が必要です。消費税の増税や社会保障切り捨てなど、安倍政権の「暴走」が計画されている中、現町政では、地方自治体が「防波堤」となって住民のくらしを守る姿勢が不十分です。

前町長においては、子ども医療費助成の拡充という住民の願いに沿った公約が掲げられていますが、その財源として議会費の削減があげられるなど、慎重な検討が必要であると考えます。

また、前町議会議員の公約は明らかにならない中ですが、現町長の提案する予算に賛成するなど、住民のくらしを守る立場に立っているとは言えません。

よって、今回の町長選挙では、支部として推薦できる候補者はないと判断しました。

候補者を擁立しないという結論は大変残念なことで、１日も早く、どんな条件のもとでも選挙で勝ち抜ける強い組織を作り上げたいと痛切に感じています。そのためにも、みなさんのさらなるご支援を心からお願い申しあげます。

２０１３年９月２５日

日本共産党　岬町支部

町議会議員　中原あきら